

2024年1月30日

株式会社三菱UFJ銀行

自社のカーボンニュートラル達成に向けた再生可能エネルギーの調達手段多様化

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ（代表執行役社長 亀澤宏規、以下 MUFG）の連結子会社である株式会社三菱 UFJ 銀行（取締役頭取執行役員 半沢淳一、以下 三菱 UFJ 銀行）は、今般、株式会社パワーエックス（取締役兼代表執行役社長 伊藤 正裕、以下 パワーエックス）が提供する蓄電池を有効活用した新しい電力供給サービス「X-PPA」（以下 本サービス）を、「三菱 UFJ 銀行 芝ビル」（東京都港区、以下 芝ビル）に導入することを決定いたしました。

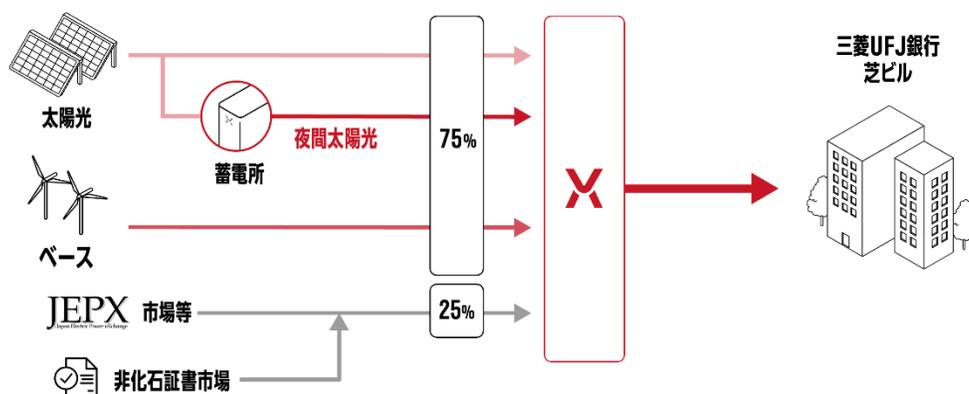
MUFG は 2021 年 5 月にカーボンニュートラル宣言を行い、自社の GHG 排出量の 2030 年までのネットゼロを目指しています。2022 年には、国内の自社契約電力を 100%再生可能エネルギー（以下 再エネ）化^[1]し、ネットゼロ実現に向けて大きく前進しました。一方で、自社だけでなく日本全体のカーボンニュートラルを目指す上では、再エネの普及が喫緊の課題であり、MUFG 自らが追加性^[2]のある再エネ調達を行うことが必要と捉えています。

本サービスの導入は、三菱 UFJ 銀行にとってはコーポレート PPA に続く新たな再エネ調達の取り組みであり、パワーエックスにとっては首都圏のオフィスビルに蓄電池を活用して再エネ電力の供給を行う初の事例となります。太陽光や風力などの再エネを使った発電は、温室効果ガスの排出削減に不可欠な技術ですが、時間帯や天候、季節などによって左右されやすく、電力需要に応じて供給するのが難しいという課題があります。本サービスは、昼間の太陽光や、風力・国内材バイオマスなどを利用

X-PPA

再エネ電源を背景に再エネ電力*を供給

蓄電池の活用と再エネ電源の調達条件の最適化により、電力料金の安定化を実現



*再エネ電力の一部は“実質”扱い

した電力に加え、日中に太陽光によって発電され蓄電池に貯められた電力を需要の高まる夕方以降の時間帯に夜間太陽光として供給することで、安定的かつ経済的に再エネ電力を提供するものです。本サービスを活用することで、芝ビルで使用する年間約 470 万 kWh の電力の約 75%を追加性のある再エネ電源からの調達に切り替えることが可能となります。

MUFG は「世界が進むチカラになる。」というパーパスのもと、投融資^[3]やソリューションの提供、商品・サービスの購入を通じ、パワーエックスをはじめとするお客さまの社会課題解決型ビジネスモデルの確立を支援しています。今後も、こうした支援を通じ、日本産業の更なる発展ならびに脱炭素社会の実現に貢献していきます。

[1] JEPX 調達・化石電源等に再エネ指定の非化石証書を組み合わせた実質再エネ化も含む

[2] 再エネ電力を購入することが、新たな再エネ電源の普及拡大に寄与すること

[3] パワーエックスへの出資の詳細については、以下のリンクをご参照下さい

<https://www.bk.mufg.jp/news/news2022/pdf/news0523.pdf>

<パワーエックスの概要>

名称	株式会社パワーエックス（取締役兼代表取締役社長 CEO 伊藤 正裕）
設立	2021 年 3 月 22 日
所在地	東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー43F
事業内容	1. 大型蓄電池の製造・販売 2. EV チャージステーションのサービス展開 3. 電気運搬船の開発・製造 4. 再生可能エネルギー等の電力供給
ウェブサイト	https://power-x.jp/